

## 米国による未臨界核実験に抗議する

2010年9月15日、アメリカ政府がネバダ州の地下核実験場で未臨界核実験を実施していたことが明らかになった。2010年5月に開催されたNPT再検討会議等、核兵器廃絶へ向けた国際的な取り組みが進展するなかで、核実験を強行した米政府に強く抗議する。また、今回の実験に続いて予定されている2回の未臨界核実験計画の即刻中止を求める。

今回の核実験は2006年8月以来4年ぶり、米国にとって24回目の未臨界核実験である。米エネルギー省国家核安全保障局（NNSA）は「保有核兵器の有効性や保管上の安全性を検証するためのデータを得るのが目的」と説明している。米政府も、「今回の未臨界核実験は核爆発を伴わず、包括的核実験禁止条約（CTBT）に違反しない」と主張している。

しかし、オバマ大統領自ら「核のない世界」を目指すことを表明し、核兵器廃絶の気運が高まってきたにもかかわらず、今回の実験を強行したことは、どのような理由があろうと許されるものではない。核不拡散体制が大きく揺らぐ情勢のなか、自国の核戦力のみを維持し続けるという米政府の姿勢はCTBTの体制そのものを空洞化させ、「核のない世界」への努力を続けている世界市民、特に被爆者の心を踏みにじるもので、重大な裏切り行為である。

米政府は、今回の核実験が核拡散の危険性を助長し、「核のない世界」への流れを深く傷つけたことを猛省しなければならない。そのうえで、改めて核兵器廃絶を積極的に推進していく行動こそが求められている。

東京反核医師の会は、米政府に対し重ねて強く抗議するとともに、ヒロシマ・ナガサキの悲劇を繰り返さないため、命と平和の尊さを訴えるべく、核兵器廃絶へ向けた取り組みをいっそう強めていく。

2010年10月15日  
核兵器廃絶・核戦争阻止 東京医師・歯科医師・医学者の会  
(東京反核医師の会)